

高専における一般教養教育について

校長 氷室 昭三



高専は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的」(学校教育法第115条)として設置された学校である。大学の目的のように「知的、道徳的」な能力の育成は文言として表れていないものの、「職業に必要な能力」が社会人として必要な知的、道徳的能力を含んでいると解釈できる。

もちろん、技術者においても人間や社会のことが分からなければ良い仕事はできない。しかし、高専において一般的に教養科目の人気のあまり高くないのは、学生が興味をもてない分野の科目だからであろう。効率が優先される現代社会では、一見非効率的にも見える一般教養教育だが、本来は触れることのない専門分野以外の知識や考え方などに触れることにより、ものの見方や考え方を広げ、専門教育での学びをより充実させ、多様な角度から物事を見ることができるようにするものである。

2011(平成23)年1月に出された中教審答申では、「高専の卒業者は、企業からその専門的知識やコンピュータ活用能力、誠実さなどが評価されている一方で、コミュニケーション能力については期待値に比べて評価が低いこと」が指摘された。このコミュニケーション能力の育成とは、単に英語で会話ができることにとどまらず、グローバル化した社会の中では相手の文化等を知り、自分の文化等について相手に伝えることが求められる。そのために教員は、企業が求める期待値を超えるような一般教養を身につけさせる努力が必要であり、それを可能にするような一般教養教育を行うことが求められる。

実際に、授業や部活動などから高専生は多くの一般教養を学んでいるものの、そのことを学生は自覚していないことが多い。まずは学生自身にそのことを自覚させることが大切である。そのためには教員の教養力が重要である。教員は、学生が学ぶことを楽しいと思うきっかけを作ることに関わるべきであり、そのきっかけを通して学生は自主的、継続的に学習するようになると思われる。

高専の場合、5年間あるいは7年間という限られた時間の中での一般教養教育の在り方があるはずである。例えば、高専の低学年は青年期にあたり、一貫教育とはいえ、提供する教育内容が発達の段階に応じたものでなければ効果が得られにくい。各学年に応じた一般教養の関わりを構築していかなければならない。



最後に、一般教養教育の重要性が専門学科の教員に浸透していない現状があるが、創造性やエンジニアリングデザイン能力等と同様に一般教養教育は高専の教育において重要であるという高専独自の教育を構築できるように努力していかなければならない。

具体的には、「環境論」「人権論」「生命論」「宇宙論」といった新たな視点から一般教養教育を考えるのもよい。例えば、「生命論」で言うと、人間の根幹に関わる命の大切さは、一般科目、専門科目の教員それぞれが学生に教えることができる。つまり、教員が専門に立脚しながらも教養教育に関わっていくという姿勢が重要であり、一般教養教育は一般科目・専門科目の双方の立場から教えるのである。



設立式

2016年5月21日(土)に本校図書館情報センターでリベラルアーツセンターの設立式を開催しました。本校を含む16高専から約60名、本校学生約80名、中学校、図書館、マスコミ関係者の参加がありました。

プログラム

■ 開会挨拶

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

■ 基調講演：「いま、何故リベラルアーツか」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ トークセッション：「リベラルアーツとは何か」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

石川工業高等専門学校建築学科教授 道地 慶子

米子工業高等専門学校教養教育科教授 川邊 博

コーディネータ：米子工業高等専門学校

リベラルアーツセンター副センター長 加藤 博和

■ 閉会挨拶

米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長

熊谷 昌彦

■ 施設見学

説明：米子工業高等専門学校建築学科准教授

高増 佳子

■ 研究会

■ 情報交換会



役割・スタッフ紹介

リベラルアーツセンターは下記の3つの役割を担っております。

- (1) アクティブ・リベラルアーツを実践し統括する活動拠点
- (2) 高専教育と学生の活動を地域・社会に発信する広報拠点
- (3) 高専制度・教育の特色、技術者に必要な教養教育などについての研究拠点

2017年4月現在

役職	氏名	所属	備考
センター長	布施 圭司	教養教育科教授	図書館長
副センター長	加藤 博和	教養教育科准教授	広報室長
センター員	松本 正己	電気情報工学科教授	情報教育センター長
〃	竹内 彰継	教養教育科教授	教養教育科長
〃	川邊 博	教養教育科教授	
〃	中島美智子	教養教育科准教授	
〃	辻本 桜介	教養教育科助教	
センター事務	福間 久光	学生課長	
〃	濱田 泰之	学生課学術情報係長	



全国高専フォーラム・オーガナイズドセッション

2016年8月26日（金）に岡山大学津島キャンパスでオーガナイズドセッション「高専におけるリベラルアーツ教育について」（オーガナイザー：熊谷昌彦・米子工業高等専門学校リベラルアーツセンター長）を開催しました。参加者は56名（本校23名、他高専等全国から33名）でした。

プログラム

■ 挨拶

米子工業高等専門学校校長 氷室 昭三

■ 基調講演：「高専におけるリベラルアーツ教育 一本格的研究の必要性について」

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ パネルディスカッション

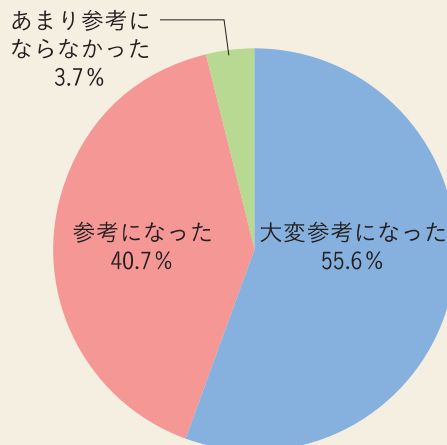
宇部工業高等専門学校校長 三谷 知世

株式会社NTTデータユニバーシティ取締役 角 正樹

広島大学高等教育研究開発センター准教授 村澤 昌崇

米子工業高等専門学校名誉教授 齊藤 正美

■ セッションに対する参加者の評価（n=27）



研究会・講演会

研究会を開催し、「高専におけるリベラルアーツとは何か」などについて探求しています。2016年度は5回開催し、具体的な研究テーマをワークショップなどを通じて検討しました。①高専制度、②工学教育、③アクティブ・ラーニングに関する研究グループでの活動も行っています。

また、外部講師を招いた講演会も開催し、議論を深めています。2016年度は、鳥取大学医学部保健学科の安藤泰至准教授（宗教学）を講師に2017年3月1日（水）に開催しました。

広島大学高等教育研究開発センターなどとの連携も図っています（同センターの2016年度国際共同研究推進事業（共同利用（個人研究支援型））に採択）。



読書会

2016年度は5回開催し、学科、学年を超えて国内外の文学作品や評論などを読み、語り合っています。



共催事業

■ 高専数学教育シンポジウム

高専生による数学研究の発表の場として年1回開催されています。2016年度は、10月1日（土）に米子コンベンションセンターで開催され、5件の発表と質疑応答、学生同士の活発な議論が行われました。



リベラルアーツ図書／センター蔵書の紹介

本校図書館交流プラザに「リベラルアーツコーナー」を設置しています。2016年4月現在、581冊の図書が配架されています（米子高専後援会より受贈）。教員による推薦書のポップも並んでいます。

また、リベラルアーツセンターには高等教育や教育工学に関する専門書・学術書などを整備しています。



研究発表：シンポジウム

日本高専学会との共催により、2017年2月11日（土）にユニティ（神戸研究学園都市・大学共同利用施設）でシンポジウムを開催しました。下記の5名が発表しました。

■ テーマ：「リベラルアーツで学生の心に火を付けよう」

- 原口 治（福井工業高等専門学校・一般科目（英語）教授）
「高専教育と教養」
- 堀畑 佳宏（米子工業高等専門学校・教養教育科（数学）講師）
「教養と抽象化能力」
- 谷野 圭亮（大阪府立大学工業高等専門学校・一般科目（英語）講師）
「府大高専における教育用SNS“Edmodo”を利用した反転授業の実践」
- 森 佳奈枝（福岡大学大学院人文科学研究科・博士課程前期）
「学生に求める前に教員についての再考を」
- 加藤 博和（米子工業高等専門学校・教養教育科（社会）准教授）
「高専における市民性育成」

2017年9月2日（土）・3日（日）は本校を会場に、日本高専学会年会（テーマ：「高専の教養教育—リベラルアーツが高専を面白くする—」）を共催します。